

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 13 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520421

研究課題名(和文)台湾現代文学におけるセクシュアリティおよび日本表象のポリティクス

研究課題名(英文)Politics of Representation of Japan and Sexuality in Taiwan contemporary literature

研究代表者

四方田 千恵(垂水千恵)(Yomota-Tarumi, Chie)

横浜国立大学・国際戦略推進機構・教授

研究者番号：70251775

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円、(間接経費) 1,110,000円

研究成果の概要(和文)：台湾現代文学に表現された、セクシュアリティおよび日本表象に着目し、日台関係における文化翻訳や文化の政治性の問題を研究した。具体的には、邱妙津、紀大偉、甘耀明などの小説家および魏徳聖などの映画作家を対象に、日本記憶を再現することで強い台湾意識を表現しようとしていることや、日本文学・映画の題材を使いつつ、それをクイア小説として再現させようとする方策が取られていることなどを明らかにした。これらの研究の成果は、8回の国際シンポジウム、日本台湾学会分科会企画を含む4回の国内学会での報告、3回の国際ワークショップの主催、専著1冊、翻訳書3冊、論文6本の刊行を通じて、広く社会に公開した。

研究成果の概要(英文)：We intended to do research in the politics of culture and translation between Japan and Taiwan, through an analysis of Taiwan contemporary literature and movies. In particular, we focused in the representation of Japan and sexuality. For example, Wei Te-Sheng's "Cape No.7" depicts a capacious Taiwan forgiving and accepting a weak Japan. It can be regarded as Taiwan's confident declaration of victory. And Chi-Ta-Wei wrote some queer novel by using the frame of Japanese films, Oshima Nagisa. We joined 8 times in international conference, 4 times in academic conference in Japan and reported papers. In addition, we held the International workshop three times and published 6 theses and 3 books. Through these activities, we have published result widely.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：台湾 セクシュアリティ 日本表象 翻訳 国際研究者交流 文学

1. 研究開始当初の背景

研究の学術的背景：国内・国外の研究動向の落差、研究の空白地帯を埋めるために

2008年12月、四方田千恵(垂水千恵)(研究代表者)および白水紀子(研究分担者)の共同編集によって、翻訳シリーズ『台湾セクシュアル・マイノリティ文学(全4巻)』(作品社、2008~9)が刊行され、邱妙津、紀大偉、洪凌、陳雪、阮岳慶、呉継文といった90年代以降活躍する台湾クィア作家たちの作品が初めて日本に紹介された。また、第4巻『クィア/酷児評論集 父なる中国、母(クィア)なる台湾』所収の諸論文により、台湾の文学研究の水準の高さが日本にも知られることになった。本計画は、こうした基盤構築の次のステップとして、台湾人研究者・作家とともに、セクシュアリティおよび日本の表象に着目しつつ、現代台湾文学全般を読み解くことで、日台関係に織り込まれた文化翻訳のポリティクスの諸相を明らかにしようとするものである。

以下、着想に至る経緯について説明する。従来の日本における台湾文学研究は、歴史的関係を背景として、植民地期の日本語文学研究を中心としてきた。研究代表者もその一人であり、単著『台湾の日本語文学』(五柳書院、1995)、共編著『台湾の大東亜戦争 - 文学・メディア・文化 - 』(東京大学出版会、2002)、『記憶する台湾 - 帝国との相剋 - 』(東京大学出版会、2005)などの著作により、その成果を公表してきた。

しかし、台湾を中心とする中国語圏、或いは英米圏での台湾文学研究の中心は、戦後の中国語文学、特に1987年の戒厳令解除以降の現代文学にある。また、90年代にはセクシュアリティに対する揺らぎを描いた高水準の作品が輩出されると同時に、さらにはそれに付随して、最新のクィア理論に基づいた研究論文が多く発表されていることに気付いた四方田千恵(垂水千恵)(研究

代表者)は、台湾文学をめぐる国内外の研究動向の落差を埋める機会を待ち望んでいた。

さらに、セクシュアリティをテーマとする傾向は、中国にはない台湾現代文学の大きな特徴であることに着目したのが、白水紀子(研究分担者)である。白水はこれまで主として中国近現代文学およびジェンダー問題を研究対象とし、『中国女性の20世紀 近現代家父長制研究』(明石書店、2001)などの著作を公表して来た。しかし、その視座を台湾にまで広げ、台湾現代文学を読み解くことで、中国/台湾の、さらには政治/性の関係までを研究対象としよう、と考えるに至った。

こうして、前述の翻訳シリーズ刊行に着手したのである。

2. 研究の目的

本研究は台湾人研究者・作家とともに、セクシュアリティおよび日本の表象に着目しつつ、現代台湾文学を読み解くことで、日台関係に織り込まれた文化翻訳のポリティクスの諸相を明らかにすることにある。さらに、その成果をシンポジウム報告、論文、或いは作品翻訳という形で日台双方において発表することにより、歴史的には日本と深い関係にありながら、中国の影で忘れられがちな「現代台湾」という文化空間を可視化すると同時に、台湾という鏡像を通じて「再現=表象」されていく日本文化の可能性を探る。また、それは東アジアにおける文化翻訳の在り方を探ることに通じるであろう。

3. 研究の方法

本研究は年1回の国際ワークショップを開催して研究交流をおこなう他、研究代表者と研究分担者、および連携研究者・研究協力者の一部は台湾出張を行い、作家インタビュー、台湾側研究者との合同研究会、資料調査をおこなうという方法を取った。

また、その結果を国内外のシンポジウムで報告することで、研究交流を行うことを重視した。

4. 研究成果

台湾現代文学に表現された、セクシュアリティおよび日本表象に着目し、日台関係における文化翻訳や文化の政治性の問題を研究した。具体的には、邱妙津、紀大偉、甘耀明などの小説家および魏徳聖などの映画作家を対象に、日本記憶を再現することで強い台湾意識を表現しようとしていることや、日本文学・映画の題材を使いつつ、それをクイア小説として再現させようとする方策が取られていることなどを明らかにした。

これらの研究の成果は、8回の国際シンポジウム、日本台湾学会分科会企画を含む4回の国内学会での報告、3回の国際ワークショップの主催、専著1冊、翻訳書3冊、論文6本の刊行を通じて、広く社会に公開した。

特に『フーガ黒い太陽』洪凌著、櫻庭ゆみ子訳、『橋の上の子ども』陳雪著、白水紀子訳、『女神の島』陳玉慧著・白水紀子訳の3冊の翻訳書の刊行は、今後の研究のプラットフォームを提供した価値ある成果であると言えるであろう。

また、2012年2月、2013年2月、2014年1月と3年連続で国際ワークショップ「台湾文学におけるセクシュアリティおよび日本表象のポリティクス」を主催した。2012年は作家・紀大偉の基調講演に加え6本の論文発表、2013年は8本の論文発表、2014年は2日にわたり、陳玉慧の基調講演および12本の論文発表とそれに対するコメント、全体討論を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

1. 「書評 洪凌著『フーガ 黒い太陽』」
白水紀子、『中国21』(愛知大学) 査読無、
第40号、2014年1月、272-278頁

2. 「表象之鏡：当代台湾／日本表象之鏡
：當代台灣／日本如何描繪彼此 以吉田修
一《路》及魏徳聖《海角七號》為中心」
垂水千恵、『中語中文学』(韓国中語中文学
会) 査読有 56巻 2013年12月 453-470
頁

3. 「台湾ポストニューシネマの日本表象
『悲情城市』(1989年)から『海角七号』
(2008年)へ」赤松美和子、『日本台湾
学会報』、査読有、第15号、2013.6、40-
54頁

4. 「戦後の創作活動から見る、台湾人作家
にとっての「日本語文学 邱永漢・黄靈芝
を例として」垂水千恵、郭南燕編『バイリ
ンガルな日本語文学 多言語多文化のあい
だ』、査読無、東京：三元社、275-291頁、
2013年6月

5. 「紀大偉は如何に大島渚を受容したか
「儀式」を中心として」垂水千恵、横浜
国立大学留学生センター教育研究論集、査
読有、第21号、53-71頁、2013年3月

6. 「邱妙津作品における「鱷」という表象
の源泉をめぐって—台湾現代文学における
日本文学の「引用」—」垂水千恵、横浜国
立大学留学生センター教育研究論集、査読
有、第20号、1-15頁、2012年3月

〔学会発表〕(計12件)

1. 「シンポジウム「セデック・バレ」を
どうみるか」赤松美和子、日本台湾学会第
11回関西西部会研究大会、神戸学院大学、2013
年12月22日

2. 「日籍作家所描繪的新竹 以日文影吉
騷動的屍體 為中心」垂水千恵、國立
新竹教育大學中國語文學系與新竹市政府主
催「第1屆台湾「竹塹學」國際學術研討會」
2013年11月8,9日(招聘)

3. 「表象之鏡：當代台灣／日本如何描繪彼此」以吉田修一《路》及魏德聖《海角七號》為中心」垂水千惠、2013 年度韓國中語中文學會聯合國際學術大會、2013 年 11 月 1-3 日（招聘）

4. 「圓桌論壇」垂水千惠、國立台灣師範大學主催「第八屆台灣文化國際學術研討會」，2013 年 9 月 5-6 日、（招待講演）

5. 「1930 年代日本文學對「野蠻」的共鳴—以大鹿卓《野蠻人》、谷崎潤一郎《武州公密話》、山部歌津子《番人萊沙》為中心—」垂水千惠、國立政治大學邀請國際傑出教學及研究人才計畫（招待講演）、2013 年 3 月 5 日

6. 「『世界文學』與文化政治—以張愛玲《色，戒》的日韓翻譯為例」黃善美·垂水千惠、國立台灣大學主催「文化流動與知識傳播—方法論與實例研究國際學術研討會」2012 年 11 月 9-10 日（招聘）

7. 「『海角七號』『雨衣』にみるジェンダーおよび日本「再」表象のポリティクス」赤松美和子、日本台灣學會第 14 回學術大會、一橋大學、2012 年 5 月 26 日

8. 「紀大偉對大島渚作品之接受—以儀式為例探討」垂水千惠、國立東華大學主催「第五屆文學傳播與接受國際學術研討會」，2012 年 5 月 4, 5 日（招聘）

9. 「戦後の創作活動から見る、台湾人作家にとっての「日本語」文学」邱永漢·黃靈芝を例として」垂水千惠、國際日本文化研究センター主催、シンポジウム「日本語で書く 非母語文学の成立」、2012 年 1 月 27 - 28 日

10. 「台湾人作家は如何に日本と関わったか 呂赫若·楊逵を中心に」垂水千惠、國際日本文化研究センター主催、シンポジウム「『外地』文学の言語的ネットワーク」、2012 年 1 月 21 日

11. 「台湾という身体の「再現」 真杉静枝を書くということ」垂水千惠、中央

研究院人文社会科学研究センター垂太地域研究 專題中心主催；「『日本文学中的台湾』國際學術研討會」2011 年 10 月 7 日（招聘）

12. 「日本文學中的少數民族之飲食文化象徵 - 以開高健的《日本三文歌劇》、小松左京的《日本阿帕契族》、梁石日《賭夜》為討論中心」垂水千惠、台灣中央大學主催；「原住民飲食文學與文化國際學術研討會」2011 年 5 月 27 日、28 日（招聘）

〔圖書〕（計 4 件）

1. 『フーガ黒い太陽』洪凌著、櫻庭ゆみ子 訳、名古屋：あるむ、1 - 361 頁、2013 年

2. 『台湾文学と文学キャンプ』赤松美和子、東京：東方書店、1-187頁、2012年11月

3. 『橋の上の子ども』陳雪著、白水紀子 訳、東京：現代企画室、1-219 頁、2011 年

4. 『女神の島』陳玉慧著·白水紀子 訳、京都：人文書院、1-333 頁、2011 年

〔その他〕

1. 日本台灣學會第 14 回學術大會（2012 年 5 月 26 日、於一橋大學）分科會企画「現代台灣文學・映画における日本「再」表象のポリティクス」企画責任者：垂水千惠、座長：白水紀子、報告者：赤松美和、西端彩、コメンテーター：張文薰、白水紀子

2. 第 1 回國際ワークショップ「台灣文學におけるセクシュアリティおよび日本表象のポリティクス」主催、2012 年 2 月 4 日（於橫濱國立大學）報告者および報告論文：鍾秩維（台灣大學）：愛欲和死亡的變奏曲：論太宰治《人間失格》與邱妙津《蒙馬特遺書》的互文性、陳允元（政治大學）：日治末期台灣文學界的一個切面——以濱田隼雄 甘井君の私小説 為中心、陳碧秀（清華大學）：後殖民情境中的少年邂逅：以吳念真《多桑》為例、林美珍（清華大學）：試論台灣解嚴初期的母語文化：以《台語文摘》為例、李佳瑩（政治大學）：女性的時間 - 以李昂 頂番婆的鬼 為例、陳昱甯（台灣大學）：臺日文學中的

女聲書寫 以賴香吟 翻譯者 與津島祐子
《太過野蠻的》為例

3. 第2回國際ワークショップ「台湾文学におけるセクシュアリティおよび日本表象のポリテクス」主催、2013年2月3日（於横浜国立大学）報告者および報告論文：陳采琪（清華大学M2）「日本法西斯主義支配下の徬徨靈魂——以陳火泉〈道〉為例」、吳嘉泓（台湾大学M2）「欲望城市與倫理鄉土

張文環與呂赫若在戰爭期的城鄉空間書寫（1941~1945）」、王琬葶（政治大学M）「陽剛他者與陰性自我 西川滿 城隍爺祭 與陳華培 女親、信女 再現的女性與民俗」、杜昀珩（政治大学M）「時髦的島都、封建的婚戀、後進的啟蒙：以林輝坤《命運難違》（1933）為例」、王鈺婷（清華大学）「再現政治：一九五〇年代臺灣文學中的台籍女性形象」、陳涵書（台湾大学M2）「戰後回憶錄所召喚的集體記憶與時代關懷——以《巨流河》為討論對象」、謝世宗（清華大学）「資本主義的全球在地化：王禎和、黃春明筆下的中小企業主與知識分子的曖昧認同」、賴品蓉（清華大学M）「革命是否預演：論表演工作坊《絕不付帳》的戲劇政治性」

4. 第3回國際ワークショップ「台湾文学におけるセクシュアリティおよび日本表象のポリテクス」主催 2014年1月24日（於横浜国立大学）報告者および報告論文：盛浩偉（台湾大学M2）「水中月影及其變奏 論吳濁流〈水月〉、川端康成〈水月〉與郭松棻 月印」、張詩勤（政治大学M3）「《金色夜叉》在戰後台灣的傳播與在地化」、趙偵宇（台湾大学M3）「場域變遷、範式轉移與典律重構：論日治時期女性散文與戰後美文傳統的文學史斷裂」、郭苓玉（清華大学M2）「團結與對立：論彰化鼎新社の成立始末與時代意義」、蕭鈞毅（清華大学M3）「禁忌與踰越 論駱以軍《遣悲懷》對話書寫背後的絕爽」、徐緯（政治大学M2）「近代戀愛論述下的留日女學生形象初探：以《可愛的仇人》及《暖流寒

流》為中心」、陳怡蓁（政治大学M3）「從翁鬧 天亮前的戀愛故事 看柏格森生命哲學與日本近代戀愛論述的傳播與影響、林祈佑（台湾大学M2）「折射的南方：閱讀中島敦 幸福」、2014年1月27日（於東京大学）報告者および報告論文：徐淑賢（清華大学）「1930年代臺灣漢詩人的滿洲體驗」、白春燕（清華大学）「論社會主義現實主義的流布——以楊逵、德永直為中心」、羅詩雲（政治大学）「戰時文學的消極性與女體：以日治時期石川達三、呂赫若的徵用作品為例」、林安琪（台湾大学）「華麗島的另一種體現 日影丈吉《消失的房子》的南方真實」

6. 研究組織

(1) 研究代表者

四方田 千恵（垂水 千恵）

（Yomota-Tarumi, Chie）

横浜国立大学・国際戦略推進機構・教授
研究者番号：70251775

(2) 研究分担者

白水 紀子（Shirouzu, Noriko）

横浜国立大学・都市イノベーション・教授
研究者番号：10196628

(3) 連携研究者

櫻庭 ゆみ子（Sakuraba, Yumiko）

慶応義塾大学・商学部・准教授
研究者番号：10242075

赤松 美和子（Akamatsu, Miwako）

大妻女子大学・比較文化学部・准教授
研究者番号：00510653